

# 水源の森再生プロジェクト (2022年度)

- #4(04/02-03) “植樹マウンドづくり”
- #5(05/20-22) “落葉広葉樹の植樹と皮むき間伐”
- #6(10/08-09) “昔の石畳を極める”



講師  
『土中環境』著者  
高田 宏臣氏



## ◆第4, 5回 落葉広葉樹の植樹 ▼森を育てて、木をいただく

これまでの作業では、山の斜面に水が浸透する土中環境を整えてきました。開始から1年が経ち、この春芽吹いたコナラやモミジの実生があちこちで見られ、早くも地面の環境は大きく変化してきています。木の実がしっかりと根付くような環境になってきている証拠です。

4月の講座では、苗木を植える場所「マウンド」づくりをおこないました。5月の講座では、100か所程のマウンドに、広葉樹18種類765本を植樹しました。コナラやモミジ、トチなど小菅村に自生していて環境に適した樹種を選んでいきます。樹高が20mを超えるこれらの樹種を植えることで、10年後、20年後には水源涵養力のある針葉樹と広葉樹の混交林が育ちます。

作業には小菅村の子供たちや、村議会議員のみなさんにもご参加いただきました。初めての木を植える作業も楽しんでくれたようでした。みんなで植えた木の成長を、ともに見守っていきたいと思います。



## ◆第5回 “皮むき間伐” ▼太陽光の差す明るい森に

均一に植えられたスギ・ヒノキを、1ヶ所あたり数本ずつ間引き、林床にパッチ状に太陽光が差す箇所を作っています。「皮むき間伐」では、スギ・ヒノキの樹皮をおき、成長を止めることで、1年近くかけて少しずつ立ち枯れさせます。幹の内部が乾き、軽くなったところで伐倒することで、伐倒の際の地面への負荷を小さくすることができ、また搬出もしやすくなります。

木を間引いたことでできたすき間には、次世代の広葉樹が育っていき、多種多世代の樹木が入り混じる豊かな森へと変化していきます。



## ◆第6回 “昔の石畳を極める” ▼石が育てる山の水源涵養力

小菅村には山にも畑にも、家の周りにもいたるところに石があります。石も、ただ地面に積んで置くだけでは、土地に馴染まず不安定なままです。しかし、石積みや石畳を組み、土地と一体となるように施工することで、水を土中に導き、水源涵養力を高める機能を持つ場所に変わります。

昨年の10月の講座では、石積みで斜面を安定させる施工を学びました。今回、石畳を施したのは、水源の森の入口から続く道です。人が何度も通る道は、石畳にすることで、人が歩いて踏み固められず、降った雨が地表を流れることなく水が石を伝い、土中に浸透する道になります。

現場の山林にある大量の石は、皆で一列になってリレーで作業場所まで運びます。これも50名近くの人が集まったからできる作業です。



50本以上のスギ・ヒノキを皮むきました。さらに林床が明るくなっていきます。

植樹をしたあとの森の様子。様々な樹種が入り混じるように植えました。

木杭にしたシイの木が芽吹いていました。これから土地に根付いて成長するでしょう。



今年の春、芽吹いたコナラの実生。広葉樹が育つ環境が取り戻されつつあります。

昔の石積み修復した谷の部分から、再び水が湧き出すようになりました。

斜面に積まれていた石が、土地に馴染む石畳になりました。

### ◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田宏臣氏著『土中環境』や「地球守の自然読本」にて紹介されています。  
○源流大学 ☎ 0428-87-7055 ✉ info@npokosuge.jp

主催/NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流大学  
技術協力/株式会社高田造園設計事務所・NPO法人地球守  
後援/小菅村役場

源流大学  
HP



源流大学  
メルマガ  
登録

